

ルンゲ筆

―― 朝 ――

新らしい日光と、新らしい空氣と、
天地の新らしい生動に躍る朝。
身は地の草に臥てゐるが、仰ぐ目は圓らに、
蒼空の高き光を宿して居る。
小さい足には力を籠めて土の面を蹴り、
短かい兩手は張り伸し、振り動かして、
際限を知らぬ自由な無極を追ふて居る。
健かな子どもの皮膚に反映する、
朝の光線の軟い光澤。
生ひ茂る草の葉に漲る、
自然の生長の強い色―

さすがに、戸外畫家の祖ともいはれるルンゲの特色が充分に出て居る。ルンゲは獨逸ハンブルヒ派に屬する若い畫家であつた。（倉橋生）

曠原社第一回兒童彫塑展覽會作品



（照參事記）